

令和元年度  
公私幼保合同研修まとめ



# 令和元年度 公私幼保合同研修 実施一覧

No	研修名	回数	掲載ページ
1	幼児教育研修会（健康）	4	P. 1
2	幼児教育研修会（防災）	1	P. 1
3	幼児教育研修会（人間関係）	2	P. 2
4	幼児教育研修会（環境）	2	P. 2
5	幼児教育研修会（言葉）	5	P. 3
6	幼児教育研修会（表現・リズム）	4	P. 4
7	幼児教育研修会（表現・造形）	3	P. 5
8	幼児教育研修会（教育原理）	3	P. 6
9	特別支援教育 障がい児保育研修会	5	P. 7～8
10	保幼小連携・接続研修会	6	P. 9～10
11	子どもの健康・安全研修会	5	P. 11～12
12	人権保育研修会	4	P. 13～14
14	衛生管理研修会	2	P. 14
15	タイムリー研修会	7	P. 15～16
16	看護職研修会	2	P. 17
17	フォローアップ研修会	3	P. 17
18	地域型保育事業研修会	3	P. 18
19	認可外保育施設研修会	4	P. 19～20
20	連続講座（コミュニケーション）	3	P. 21
21	連続講座（わらべうた）	3	P. 22
計		71回	



## 幼児教育研修会(健康)

### 第1,2回

#### 「幼児期に保育者が知っておきたい基礎運動能力育成」

日時：①令和元年5月9日(木) 15:30~17:00  
②令和元年7月4日(木) 15:30~17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪大谷大学 教育学部 准教授 岡 みゆき

内容：リズムを感じ取る能力や自身の動きをリズム化する能力の神経系が育つ幼児期には、ふさわしい運動の取組が必要であること。なわやボールなどの手具を使った遊びについて、どういう能力が育つかを実技を交えて学んだ。また、日頃の保育で子どもの動きからどんな運動遊びが必要かを考えるヒントと安全な取り組み方等も学ぶ。

### 第3,4回

#### 「心がはずむ 体がはずむ 笑顔がいっぱいのなわとび指導」 ～一人ひとりの子どもに寄りそって～

日時：①令和元年7月18日(木) 15:30~17:00  
②令和元年8月1日(木) 15:30~17:00

会場：①大阪市立生魂幼稚園

②大阪市立五条幼稚園

講師：元大阪市立小学校 教育研究会 体育部 部長 山本 一郎

内容：子どもの緊張をほぐす「体ほぐし」の動きを体験し、運動遊びへの導入の仕方を学ぶ。なわ遊びを取り上げることで育つことと、小学校教育の実態等を知り、幼児期からなわに親しみ、保育者がポイントを知った上で、子どもに支援していく大切さと、子どもの興味や関心、意欲を育てることは他の学習意欲にもつながることを学ぶ。



## 幼児教育研修会(防災)

### 第1回

#### 「防災教育 できることから始めよう」

日時：令和元年11月28日(木) 15:00~17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪大谷大学 教育学部 教育学科 准教授 地下 まゆみ

内容：地震、風水害等の実際の映像と分析から、自然災害の起こる仕組みを学ぶ。また、乳幼児の避難時の状態を道具を使って再現し、実際に動けない状態を見て、園所で災害が起きたときのイメージを持つ。そこから避難のヒントについて学んだことをもとに、各園所の避難訓練の在り方について、今後見直す必要とポイントについても確認をする。

# 幼児教育研修会(人間関係)



## 第1回

### 「子どもの自発・自主・主体を伸ばす保育」 ～協同的学び～

日 時：令和元年6月7日（金）15：30～17：00  
会 場：大阪市保育・幼児教育センター  
講 師：神戸常盤大学 こども教育学科 教授 多田 琴子

内 容：「自発は欲求する力」「自主は自発を承認されて育まれる」「主体は問題解決能力」ということをテーマに参加者自身の行動力を培うことを目的に、ワールドカフェを実施する。まとめとして協同的な学びは、幼児期から対話を通して育っていくので学級での活動には自ら考え、話す、再度考えることを大切にしたい保育の展開が望ましいと学ぶ。

## 第2回



### 「自己発揮と他者理解」 ～主体的に対話的に深く学ぶ～



日 時：令和元年9月20日（金）15：30～17：00  
会 場：大阪市保育・幼児教育センター  
講 師：神戸常盤大学 こども教育学科 教授 多田 琴子

内 容：ビデオを視聴した後、各自考えをワールドカフェ方式で整理する。自己発揮は良さと捉えて自分らしさを出すこと、他者理解は鏡にして自己を知ること、相手の立場で考えることで、問題解決に臨む力や、他者と折り合いをつける力が備わっていく。このような育ちを重ねていくことで、人と関わる態度や心情を身につけていくことにつながることを学ぶ。

# 幼児教育研修会(環境)

## 第1,2回



### 「園庭の自然をもっと生かして子どもたちに自然から学ぶ姿勢を育てよう」

日 時：①令和元年5月30日（木）15：00～17：00  
②令和元年6月21日（金）15：00～17：00  
会 場：①大阪市立菅南幼稚園  
②大阪市立玉造幼稚園  
講 師：京都光華大学 教育学部 非常勤講師 菅井 啓之

内 容：幼稚園と地域の自然環境を実際に見たり触れたりしながら、動植物への目の向け方やどう接して遊ぶのか、知識を得るとともに感じ、体験する。体感することで、その大切さを感じ、面白さを味わえる。身近にある自然をどう理解し、子どもたちに活かしていくのか保育者の在り方も考える。



## 第1回

### 「子どもの言葉を耕し、育む支援の在り方」 ～遊びや日常生活を通じた言葉の育成をめざして～

日時：令和元年8月21日(水) 15:30～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：神戸常盤大学 教育学部 こども教育学科 准教授 山下 敦子

内容：これからめざすべき思考は拡散的思考、収束的思考、メタ認知的思考であり、言葉と自らの体験により必要な力を身に付けていくことで生きる力につながる。言葉を育むための読書の意義を知り、乳幼児期に身に付けた語彙力がその後の学校生活や将来に及ぼす影響や、保育時の読み聞かせ等の必要性を学ぶ。



## 第2,3,4回

### 「絵本の読み聞かせのコツ」

日時：①令和元年10月24日(木) 15:30～17:00

②令和元年11月13日(水) 15:30～17:00

③令和元年12月3日(火) 15:30～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：フリーアナウンサー 叶 桂子

内容：話し方の基礎を息や腹式呼吸、発声、母音を大事に明瞭にすること、滑舌、ベクトル、メリハリ、間の大切さをワークを通して体験する。話し言葉は音声言語、その人の人間性を感じさせる声であることから、技術的にも磨いて子どもたちに話しかけ、読み聞かせをする大切さを学ぶ。



## 第5回

### 「言葉を耕し・伸ばし・つなげる」 ～幼児から小学校への円滑な言葉の接続をめざして～

日時：令和元年12月6日(金) 15:30～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：神戸常盤大学 教育学部 こども教育学科 准教授 山下 敦子

内容：これからの教育は、学んだコンテンツを日常生活で使える工夫ができるようにコンピテンシー・ベースの教育に変わる。そのためには、幼少期から、意欲、自己調整力、社会的スキルを育てていく必要がある。6年生の授業では自分から読み取り、考え、発表する姿が見てとれ、授業改善の試みがすでに始まっていることを知る。また、絵本の読み聞かせにより、話の内容を聞き取る力、イメージする力を養っておく重要性も学ぶ。





## 第1回

### 「子どもたちと絵具で遊ぶ活動について」

日時：令和元年5月27日（月）15：00～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：常磐会短期大学 幼児教育科 教授 白波瀬 達也

内容：絵具の溶き方や濃度などの扱い方の基本を学ぶ。さらに、絵具を使った遊びに関する実技を通して、子どもの気持ちもイメージしながら、作品作りを行うことによって絵具の面白さを子どもに指導するの留意点も学ぶ。



## 第2回

### 「子どもたちが楽しむ造形活動について」

日時：令和元年6月14日（金）15：00～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：常磐会短期大学 幼児教育科 教授 白波瀬 達也

内容：身近な素材を使って、子どもが日頃の生活で親しんでいる食べ物をテーマに制作を楽しむ。素材の扱い方や、デザインする楽しさを体験しながら、子ども達が遊ぶ時に必要な配慮や、助言の仕方など具体的に学ぶ。

## 第3,4回

### 「身体表現と他領域とのドッキング遊び」

日時：①令和元年7月31日（水）15：30～17：00

②令和元年8月23日（金）15：30～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：帝塚山大学 教育学部 こども教育学科 教授 岡澤 哲子



内容：心身から発する躍動感を体を使って見える形にするのが表現。実技を通して、五感への刺激、子どもが安心して活動できる環境づくりについて学ぶ。また、他領域とのつながりが必然であり、そこに表現する力や意欲なども備わっていくということを学ぶ。



## 第1回

### 「音・音楽に主体的に向き合う子どもの育成をめざして I」

日時：令和元年8月6日（火）15：30～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪総合保育大学 総合保育学部 講師、関西大学 文学部 講師 内海 和夫  
大阪市立新庄小学校 教諭 谷井 良子

内容：手拍子ソングや名前遊び等、子どもがすぐに取り組みたくなる遊びを紹介。幼児期から遊びの中で、拍をとる拍感が養われ、音や音楽の基礎を身に付けることができる。一年生の楽器遊びの進め方を体験し、幼児期からの遊びが活かされていることを知るとともに、個々に自分から音、音楽に興味をもてる子どもに育てていく大切さも学ぶ。



## 第2回

### 「音・音楽に主体的に向き合う子どもの育成をめざして II」

日時：令和元年8月9日（金）15：30～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪総合保育大学 総合保育学部 講師、関西大学 文学部 講師 内海 和夫  
大阪市立新庄小学校 教諭 谷井 良子

内容：音楽鑑賞の楽しみ方について教わり、保育者自身が曲の雰囲気を楽しむ子どもにどう投げかけるか、楽しさを引き出す大切さを学ぶ。歌唱指導では、実技を通して、歌の速度変化、リズム変化、音の高さ、強弱、短調で伴奏の変化をつける等、一つの歌をいろいろな楽しみ方ができると、その経験の中で子どもの心で感じる力を育てることにつながることも学ぶ。

## 第3回

### 「豊かな造形表現を支えるための指導・援助」 ～子どもの思い・保護者の願い～

日時：令和元年8月29日（木）15：00～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：造形教育研究所「こどものアトリエ」代表 村田 夕紀

内容：参加者が自園所から作品を持ち寄り、参加者が子どもの状態、課題などを説明し、講師から技法の進め方や子どもの発想を受止める大切さなどの保育の手立てを学ぶとともに、造形遊びへの意欲を育てる必要性についても学ぶ。





## 第1回

### 「研究に取り組むために」

日 時：令和元年6月17日（月）15：30～17：00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：大阪市立菅南幼稚園 園長、大阪市立幼稚園教育研究会 会長 石川 順子

内 容：保育研究では、子どもの姿をよく見て記録すること、担任以外の先生が気づいたことを出し合うこと、保育の在り方を見直して行くこと、良い点、改善点等を明確にし、さらに保育を高めていくこと、これらを繰り返していくことが保育力を伸ばすことと、子どものよりよい成長と、園所全体の保育力アップにつながることを学ぶ。また、具体的な事例を通してワークを行い、考えを出し合う。



## 第2回

### 「保育カンファレンスに遊び心と主体性を」

日 時：令和元年7月5日（金）15：30～17：00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：常磐会短期大学 幼児教育科 教授 恒川 直樹

内 容：保育カンファレンスの意味と必要性について学び、事例を通して各自が考え、グループで共有する。その後話し合い、自園所で進めるときにどうするかを考える。子どもがいきいきと生活できるように、保育者が配慮すべきポイントに向けて話し合い、改善できる方法を学ぶ。



## 第3回

### 「早朝と夕方の保育で大切なこと」

日 時：令和元年11月22日（金）15：00～17：00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：常磐会短期大学 幼児教育科 教授 恒川 直樹

内 容：幼稚園の預かり保育を含む、早朝と夕方の保育時における子どもの実態について心理面と行動面から学ぶ。参加者が日頃抱える課題と工夫や、改善のアイデアについてグループで話し合う。各園所の取組の実態から意見を出し合い、早朝と夕方の保育においても子ども理解の重要性と、支援の工夫の必要性を学ぶ。





## 第1回

### 「子どもの理解と支援」 ～感覚統合の視点から～

日時：令和元年7月24日（水）14：30～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪府立大学大学院 総合リハビリテーション学研究所 准教授 立山 清美

内容：感覚統合について、そして、感覚を育む活動や運動機能、感覚統合のトラブル、感覚過敏について具体的に学び、何より一人ひとりの子どもを知る、ひとりの子どもを正しく理解する、そして一人ひとりに合わせて支援をしていくことの大切さを学ぶ。



## 第2回


### 「乳幼児期の感覚・運動機能に着目する」 ～保育に役立つ具体的支援について～

日時：令和元年8月26日（月）14：30～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：兵庫医療大学 リハビリテーション学部 准教授 有吉 正則

内容：姿勢や体のバランスをとる根本として感覚情報が大事になってくる。0歳のはいはいやつかまり立ちが今後の手の動きや姿勢、運動面に繋がるなど、具体的な事例から乳幼児期の発達が進後の成長に大きく影響することを学ぶ。自律神経系機能を育てる生活習慣やスキンシップ、アイコンタクトなどの支援のポイントも学ぶ。



## 第3回

### 「発達に課題のある子どもへの遊びを通じた支援」

日時：令和元年10月17日（木）14：30～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：神戸親和女子大学 発達教育学部 児童教育学科 非常勤講師 森田 安徳

内容：身体を使った子どもを育てる様々な遊び（感覚・運動遊び、姿勢とバランス遊び、情緒を安定させる遊びなど）を具体的に学び、遊びを通してどこが発達するのか、子どもの育ちや障がいに合わせながら遊びを取り入れるヒントなどを学ぶ。どんな遊びもねらいと意図をもって、障がいの有無にかかわらず楽しめる活動の工夫が必要だということも学ぶ。



## 第4回

### 「発達障がいの可能性がある子どもの保護者の心情理解と支援」

日時：令和元年11月21日（木）14：30～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪府立大学 地域保健学域 教育福祉学類 准教授 木曾 陽子

内容：保護者の意向を大事にスモールステップで支援を考えること、エピソード分析から保護者が求めていること、障がいがあるかもしれないことを焦って伝えるのではなく時期を待つ、逆に「大丈夫」と無責任に言うのではなく、日々の様子・具体的な支援の様子を伝えることの大切さを学ぶ。事例をもとにグループワークでも保護者の思いの整理や具体的支援について考える。



## 第5回

### 「困っている子どもに気づき、理解と支援を考える」

日時：令和2年2月4日（火）14：30～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：畿央大学 教育学部 教授 小野 尚香

内容：LGBTに対する理解について、人権を基盤としたスウェーデンの幼児教育の事例を学び、発達障がい・ダウン症・視覚障がいなど障がいのある子どもについて、発達や困り感について学ぶ。そして、困り感は子ども一人ひとり違う、そのうえで配慮できること、子どもをほめて伸ばす、25%ルールでほめるなど支援のコツについて学ぶ。





# 保幼小連携・接続研修会

## 第1回

### 「育ちと学びがつながる幼児教育と小学校教育の連携」

日時：令和元年6月11日（火）15：00～17：00

会場：大阪市立福島区民センター

講師：鳴門教育大学 附属幼稚園 園長・教職大学院教育実践教授 佐々木 晃

内容：幼児期の教育について、実践をふまえた具体例を聞き、遊びや真似っこを通して、非認知能力の大切さなど学ぶ。さらに、今までの連携は、それぞれの独自性を発信していたが、これからは、教育の一貫性を提案していく、18歳までどう繋げていくのか、日常の遊びが小学校の何に繋がるのか、子ども一人ひとりの学びを見つめ進めていくことが連携・接続になることを学ぶ。

## 第2回

### 「資質・能力を育むための保育方法・保育環境の視点から幼少接続を考える」

日時：令和元年8月1日（木）15：00～17：00

会場：大阪市立東成区民センター

講師：大阪総合保育大学 教授 瀧川 光治

内容：小学校がゼロスタートではない、スタートカリキュラムの意義は安心・成長・自立である。円滑な接続のために、幼児期は、主体的な活動を通して資質・能力を育むことが大事であるということ、そして、グループワークでは、ストローを使って綿棒を飛ばしたり、動画で子どもの泥団作りを見たりして、遊びを通して、何を学び何を育てたいかなど意識し、保育者は、見通しをもって保育の展開や環境構成を行うことが大事であるということ学ぶ。

## 第3回

### 「幼児期の教育と小学校教育の連携・接続の推進について」

日時：令和元年10月15日（火）15：00～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：奈良教育大学 教育学部 教授 横山 真貴子

内容：幼稚園教育要領・保育所保育指針等の3つの改訂（改定）のポイント、育成すべき資質・能力の3つの柱を学び「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿（10の姿）」は、目標ではなく、伸びていく姿として見ていく。18歳までその時にしか学べないことを学び繋いでいく、幼児教育はその土台となる、幼児期に何を大事にしたいか、生きていくためにどんな力をつけたいか考えることの大切さを学ぶ。グループワークにより幼小連携・接続の工夫も共有する。



## 第4回

### 「幼児や児童の声から不公平についておとなも考えなおす」 ～片付け場面といじめ場面における公平と正義～

日時：令和元年11月22日（金）15：00～17：00  
会場：大阪市立東成区民センター  
講師：大阪教育大学 教授 戸田 有一

内容：子ども達は幸せになるために学力・知識・スキルなど、主体的に友達と過ごす中で身につけていく。その力を支配（いじめ）に使うか支援（サポート）に使うかで全く違う。小学校の道徳でその力の使い方を教える。その基礎を就学前施設で身につけている。実践者は子どもを理解し、支援と支配の微妙な差異を見抜き支える必要があるなど、ピアサポートの事例を交えながら学ぶ。

## 第5回



### 「学びの連続性と円滑な接続」 ～子どもとの向き合い方～

日時：令和元年12月9日（月）15：00～17：00  
会場：大阪市保育・幼児教育センター  
講師：東大阪大学 学長代行 副学長 教授 吉岡 眞知子



内容：小学校での教科の基礎が就学前教育の遊びの中にすべて詰まっている。小学校教育が就学前教育とどう繋がり活かされているか理解し、広い視野で見えていくこと、そして、指導者の役割は、子どもの育ちの筋道を理解しその子に寄り添っていくこと、お互いの子どもの育ちを知り、指導観を語り合い、一人ひとりの育つ過程をしっかりと見ていくことの大切さを学ぶ。

## 第6回



### 「諸感覚を働かせた自然理解から子どもの学び・育ちの連続性を考える」

日時：令和2年2月14日（金）15：00～17：00  
会場：大阪市保育・幼児教育センター  
講師：兵庫教育大学 教授 溝邊 和成

内容：子どもは体験を通して感覚を作ったり表現することを知ったりする。たくさんの経験と環境設定が大事。その違いによって感じ方や知識の強化に変化が出てくる。何気なくやっていることを諸感覚を駆使している点から考える大切さ、諸感覚の何を使っているか考え、子どもと一緒に話し、考える時間・場所を共有することが豊かな知識を育てる。乳児期の大人の関わりが幼児期・学童期の力に繋がっていくことを学ぶ。

## 第1回

### 「保育事故を防ぐための日々の取組を考える」 ～「事故防止及び事故発生時対応マニュアルの手引き」を活用して～

日時：令和元年5月24日（金）14：30～17：00

会場：大阪市立福島区民センター

講師：京都精華大学 教授 住友 剛

内容：大阪市の就学前施設における事故防止の取組の報告を受けた後、「就学前施設での事故防止研修の企画書をつくる」というテーマでグループ討議を行う。講義の中でも、事故防止の研修や日々の取り組みの点検、風通しのいい施設運営の大事さとともに、事故防止の取り組みは、「子ども理解を深める」こと「保育内容を考える」ことにも結び付くことを学ぶ。

## 第2回

### 「就学前施設における食物アレルギーとその対応」

日時：令和元年7月2日（火）14：30～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪府済生会中津病院 小児科 免疫・アレルギーセンター 副部長 平口 雪子

内容：食物アレルギーとは何か、その症状や対応、アナフィラキシーなどについて具体的に学ぶ。また、集団の中での対応として、生活管理指導表の留意点や誤食防止、緊急時対応についても学ぶ。実際に全員がエピソードトレーナーを持ち、打ち方の確認をし、緊急時対応で必要な行動の確認や役割分担などグループでの実技練習も行う。

## 第3回

### 「学校等欠席者・感染症情報システム初期操作について学ぶ」

日時：令和元年8月28日（水）14：30～17：00

会場：PCポートキャリアカレッジなんば駅前校

講師：大阪市こども青少年局 保育施策部 保育企画課 担当係長 松林 裕美

内容：H30年6月以降開設の施設対象に、感染症の「早期探知」と「早期対応」のために学校欠席者情報収集システムを活用することの大事さを学び、その見方や入力方法、活用の仕方について、実際にパソコンを使って入力しながら具体的に学ぶ。



## 第4回



### 「保育施設等における重大事故に備えて」 ～あなたは何かができますか？～

日時：令和元年9月4日（水）14：30～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪医科大学 救急医学教室・小児科学教室 小児科専門医 新田 雅彦

内容：急変、保育施設などでの重大事故、応急処置と一次救命処置について講義を聞き、件数や内容など具体的な事故の概要を知るとともに、一次救命処置の重要性を学ぶ。そして、一次救命処置として心肺蘇生や気道の異物除去の手技を学ぶ。日頃から事故を予測し、予防や対処について学んでいくこと、落ち着いて行動することの必要性を学ぶ。



## 第5回

### 「サーベイランスは何のためにするの？」 ～導入後フォローアップ研修～

日時：令和2年2月6日（木）14：30～17：00

会場：大阪産業創造館 5F

講師：国立感染症研究所 感染症疫学センター 主任研究官 大日 康史

内容：感染症対策の第一歩はサーベイランスで得られた情報を正しく伝えること。サーベイランスの目的は対策をとる人々に、得られた情報を解析・解釈して伝えること。まん延防止対策のために保護者にも協力してもらえようタイミングを逃がさず情報を伝える。自施設で発生のない段階から早期対応をする。感染症対策は日常的にサーベイランスをしていることが大事ということを知る。



## 第1回

### 「普段の保育から考える人権保育の視点について」

日時：令和元年7月9日（火）14：30～17：00  
会場：大阪市保育・幼児教育センター  
講師：常磐会短期大学 教授 ト田 真一郎

内容：エピソードを交えながら人権を考える基本的な視点や子どもの豊かな力を育むために、保護者支援など保育現場が果たすべき役割について学ぶ。そして、普段の保育で行っている人権の視点を意識化を図るため、人権保育への自分のこだわり等を出し合い、人権保育推進のための今後の発信（第1歩）を考える。

## 第2回



### 「児童虐待」 ～私たちにできること～

日時：令和元年10月10日（木）14：30～17：00  
会場：大阪市立福島区民センター  
講師：大阪市こども相談センター 相談支援担当課長代理 岩佐 和代

内容：虐待について大阪市の現況などを学び、私たちにできることは虐待の早期発見・発生予防、虐待問題を抱えている家族への支援であり、そして、求められていることは何か、今できる予防と対応は何か、支援を行う時の注意点などを学ぶ。グループワークでは、大切なものを失う気持ち、悲しい時・つらい時の気持ち等に触れ、今までの自分たちの思い・行動を振り返る。

## 第3回



### 「自分を大事にすることは、なかまを大切にすること」 ～たくさんの出会いは私にとって宝物！！～

日時：令和元年11月6日（水）14：30～17：00  
会場：大阪市保育・幼児教育センター  
講師：元常磐会短期大学 非常勤講師 西原 美保子

内容：子ども・保護者との出会い・関わりの中で保育観が変わった経験や人権保育の視点にたったの保育実践の経験等の話も聞きながら、差別の仕組みや人権問題（差別の問題）を学ぶ。命が存在していることは尊敬する事、子ども一人ひとりを人間として尊重・尊敬できるか、常に問いかけながら保育・教育を創り出していく、自分を振り返っていくことの大切さを学ぶ。



## 第4回

### 「乳児期からの人権保育」 ～三重県の取組から～

日時：令和2年1月21日（火）14：30～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：鈴鹿大学 短期大学部 教授 長澤 貴

内容：三重県で人権保育プロジェクトアドバイザーを務める講師より、地域や保護者向けパンフレット「『乳児期からの人権保育』～1歳の生活から考える～」等を用いて乳児期からの人権について考える。1・2歳児の保育で困った経験、人権上気をつけていることをグループワークで出し合い、適切な愛着形成が必要な乳児期の子どもに対して、人権に配慮して関わり、子どもの気持ちに共感すること、気持ちに寄り添うことの大切さについて学ぶ。



## 第1,2回

### 「食中毒の予防について」

日時：①令和元年5月15日（水）15：30～17：00

②令和元年5月23日（木）15：30～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：①大阪市健康局 保健所 東部生活衛生監視事務所 監視員 森田 大樹

②大阪市健康局 保健所 南東部生活衛生監視事務所 監視員 矢木 夕美子

内容：食中毒とは、微生物や有毒・有害物質の付着している食品を食べることにより起こる健康被害。その中から、カンピロバクター、ノロウイルス、アニサキスによる食中毒について症状や治療、予防について詳しく学ぶ。手洗いの徹底、調理場・調理器具の衛生管理、加熱など適切な食品の取扱いの重要性も学ぶ。







第1回

「愛着障がいと発達障がいの理解と支援」

日時：令和元年6月18日（火）14：30～17：00  
 会場：大阪市保育・幼児教育センター  
 講師：和歌山大学 教育学部 教授 米澤 好史

内容：愛着の基本原理は、特定の人と結ぶ情緒的な心の絆であり、愛着関係はいつでも取り戻すことができる。また、発達障がいは先天的であるが、愛着障がいは後天的な関係性障がいであるということを学ぶ。さらに、愛着障害の3大特徴として、愛着欲求行動・自己防衛・自己評価の低さがあげられることを学ぶ。



第2,3回

「就学前教育カリキュラムの活用と実践」  
 ～就学前教育カリキュラム改訂を踏まえて～

日時：①令和元年8月5日（月）14：30～17：00  
 ②令和元年8月7日（水）14：30～17：00  
 会場：大阪市保育・幼児教育センター  
 講師：東大阪大学 学長代行 副学長 教授 吉岡 眞知子

内容：育成すべき資質・能力の3つの柱（知識及び技能の基礎、思考力・判断力・表現力等の基礎、学びに向かう力・人間性等）、その基礎を育むために、遊びを通しての総合的な指導力が大事。そのための資料として就学前教育カリキュラム、事例集がある。教育的意図が、押し付け・誘導になっていないか、子どもに寄り添っているか、子ども理解をしているか、共に育つ原点に戻り、振り返りを大切にすることを学ぶ。



第4,5回

「精神疾患のある保護者とその子どもの支援について」

日時：①令和元年8月28日（水）14：30～17：00  
 ②令和2年1月20日（月）14：30～17：00  
 会場：大阪市保育・幼児教育センター  
 講師：大阪大学大学院 医学系研究科 公衆衛生看護学教室  
 准教授・保健師 蔭山 正子

内容：障がいが育児に与え得る影響と精神疾患のある保護者に育てられる子どもが抱えやすい困難と支援について具体的な事例を交えながら学ぶ。保護者の思いを受容し、決めつけず信頼関係をつくっていくことや関係機関とも連携していくことの大切さを学ぶ。





## 第6回

### 「体罰によらない子育て」 ～虐待が子どもの心に与える影響～

日時：令和2年1月27日（月）14：30～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪市こども相談センター 医務主幹 東 誠

大阪市こども相談センター 担当係長 高下 洋之・荒井 直子・豊田 紗代

内容：医師の立場から、長期にわたる不適切な養育で生じる反応性愛着障がいや多動性行動障がい、子どもの心の傷に関して、その病態の変化・重さ、治療の困難さについて学ぶ。そして、心理士の立場から、保護者の相談対応など、具体的にロールプレイを交えながら支援のポイントについて話を聞き、ネットワークづくり・肯定的に支援する・できることを見る・楽しさの共有をすることの大切さを学ぶ。

## 第7回

### 「けいれん・てんかんの正しい知識と救急対応について」

日時：令和2年2月17日（月）14：30～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪市立総合医療センター 小児神経内科医長 九鬼 一郎

内容：誤解なく正しい知識と救急対応を学ぶということで、けいれんとてんかんの症状や治療について、そして最も大事なことはどのような発作（発作症状）か知ること、発作時の救急対応としてやってはいけないこと、できればやっておきたいことを学ぶ。発作は医師の前ではなく、園所・家で起きることがほとんどなので動画や記録などで、細かく発作症状を伝えることが治療の第一歩となることを学ぶ。



## 第1回



### 「子どもに起こりやすい事故の防止と事故、ケガに対する応急手当てについて」

日時：令和元年10月24日（木）14：00～17：00  
 会場：大阪市保育・幼児教育センター  
 講師：大阪赤十字病院 小児外科 部長 大野 耕一  
 大阪赤十字病院 小児科 副部長 藤野 寿典



内容：小児外科と小児科の違い、そして、小児外科では、切り傷・やけど・骨折・頭部外傷・溺水などの原因や応急手当、小児科では、アナフィラキシー・心肺蘇生法・実際に起こった事例など、写真や図を使って具体的に学ぶ。また、生活形態や生活用品の変化に伴って思わぬ事故に繋がっていることも学ぶ。

## 第2回



### 「保育施設における看護職の役割」 ～保健計画の活用・健康教育の実践報告～

日時：令和2年2月12日（水）14：00～17：00  
 会場：大阪市保育・幼児教育センター  
 講師：一般社団法人 全国保育園保健師看護師連絡会 理事 小野寺 芳子

内容：保健計画は保健指導を計画的に進めていくために必要であり、子どもの状況や変化の記録をとることや、サーベイランスの実施も重要。園所全体のデータとして活用でき、対応や指導方法の改善、保護者への啓発など役立つことを学ぶ。「口腔衛生」「手洗い」「咳エチケット」についての実践報告では、実際に使用した道具を用いて報告を受ける。さらに交流により他園所の取組を知り、今後の保健計画、健康教育について話し合う。

# フォローアップ研修会

## 第1,2,3回



### 「乳幼児期の発達」について

日時：①令和元年6月6日（木）15：00～17：00  
 ②令和元年9月11日（水）15：00～17：00  
 ③令和2年1月15日（水）15：00～17：00  
 会場：大阪市保育・幼児教育センター  
 講師：大阪市保育・幼児教育センター 研修・企画担当課長代理 浜崎 朋子

内容：保育所保育指針・なにわっ子わくわく未来プログラムをもとに、保育のねらいや内容、乳幼児期の発達の特性・発達過程について具体的学び、生きる力の基礎となる愛着形成・基本的生活習慣の育成の大切さ、子ども一人ひとりを大切にして向き合うことが子どもの育ちの支えになることを学ぶ。そして、子どもの周りにある危険性についても考える。グループで悩みや保育の工夫など意見交流を行う。



## 第1回

### 「絵本から育まれる力について」 ～0、1、2歳児の発達をふまえて～

日時：令和元年6月4日（火）14：30～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：社会福祉法人 子どものアトリエ 城東よつば保育園 園長 瀧 薫

内容：保育所保育指針の内容も交えながら、乳児期の子どもの姿・発達の特徴、乳児保育の大切さを学び、それに合わせて環境や玩具・絵本を用意することの大切さを具体的に映像や実物で紹介していただきながら学ぶ。そして保育者との1対1の関わりや見守ってくれる存在が、子どもの活動をささえ、安心して周りの世界に関わっていけることを学ぶ。



## 第2回

### 「地域型保育事業における保育の現状と課題」

日時：令和元年11月18日（月）14：30～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：東大阪大学 学長代行 副学長 教授 吉岡 眞知子

内容：保育所保育指針の内容をふまえながら、3歳児未満の保育の特徴・大事さや非認知能力について学ぶ。そして、願いをもって、子どもを信じて、子どもがどんな力をつけようとしているのか見守り、個々に寄り添い、小規模ならではのよさを生かした保育、人生の基礎となる時期を大事にしていくことの大切さを学ぶ。グループに分かれて、悩みや保育の工夫など、交流も行う。



## 第3回

### 「ひととふれあう あたたかさ みんなで集う楽しさを!!」

日時：令和2年1月16日（木）14：30～17：00

会場：HRCビル 第1研修室、はらっぱ舎AIAI

講師：公益社団法人 子ども情報研究センター 谷畑 恵子

内容：大阪市小規模保育所はらっぱ舎AIAIの保育で大切にしていること、地域型保育事業所の意義役割について話を聞き、実際に体を動かしながら簡単に楽しめる遊びを行う。そのあと、はらっぱ舎AIAIで実際に子ども達と遊んだり、施設の見学をしたりして、人と触れ合うことの大事さ、楽しさ、温かさを学ぶ。

## 第1回


### 「食中毒の予防について」

日時：令和元年5月29日（水）15：30～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪市健康局 保健所 南西部生活衛生監視事務所 監視員 徳田 朋恵

内容：食中毒とは、微生物や有毒・有害物質の付着している食品を食べることにより起こる健康被害。その中から、カンピロバクター、ノロウイルス、アニサキスによる食中毒について症状や治療、予防について詳しく学ぶ。手洗いの徹底、調理場・調理器具の衛生管理、加熱など適切な食品の取扱いの重要性も学ぶ。



## 第2回

### 「絵本から育まれる力について」 ～0、1、2歳児の発達をふまえて

日時：令和元年7月12日（金）18：00～20：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：社会福祉法人 子どものアトリエ 城東よつば保育園 園長 瀧 薫

内容：保育所保育指針の内容も交えながら、乳児期の子どもの姿・発達の特徴、乳児保育の大切さを学び、それに合わせて環境や玩具・絵本を用意することの大切さを具体的に映像や実物で紹介していただきながら学ぶ。  
そして保育者との1対1の関わりや見守ってくれる存在が、子どもの活動をささえ、安心して周りの世界に関わっていただけることを学ぶ。

## 第3回


### 「こどもが豊かに育つ うたあそび」 ～明日も遊ぼう！子どもを育てるうたあそび～

日時：令和元年8月22日（木）18：00～20：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：公益社団法人 子ども情報研究センター 谷畑 恵子

内容：子どもを取り巻くすべてのことが子どもを育てていく。遊びの中には、体・言葉・心を育てる大切なものがたくさんある。子どもは与えられるだけでなく、自ら学ぼうとする。大切にされている、繋がっているという実感こそ、豊かに生きていくという力の源になる。実際に『うたあそび』からまねっこなど心が通じる遊びや心・体がほぐれる遊び等、ひとつの歌から色々なパターンで、子どもが主体となれる遊びができることを学ぶ。





## 第4回

### 「保育士と、子ども自身の安全意識を育てるには」

日時：令和元年11月9日（土）14：30～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪大学大学院 人間科学研究科 安全行動学研究分野 特任研究員 岡 真裕美

内容：事故のメカニズムや実際に起きた子どもの事故事例から、その原因や予防策などを学び、「よく見て」「気い付けや」ではわからない、「今」がすべて「自分」が中心、「臨機応変な対応」を求めるのは難しいなど子どもの特性を知って事故を防ぐことや、就学前や就学当初の安全教育が求められていることなどから、ヒヤリハットの経験を共有する重要性を学ぶ。





## 第1回

### 「コミュニケーションのメカニズムについて」

日時：令和元年5月17日（金）14：30～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪城南女子短期大学（子育て支援ソーシャルワーク研究所） 丸目 満弓

内容：コミュニケーションについて、ソーシャルワークの観点から人と環境との相互作用について具体的に学ぶ。また、非言語コミュニケーションについては、ワークを通して体験し、気づきとともに、コミュニケーションの難しさも学ぶ。



## 第2回

### 「保護者支援におけるコミュニケーション」

日時：令和元年8月2日（金）14：30～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪城南女子短期大学（子育て支援ソーシャルワーク研究所） 丸目 満弓

内容：保護者支援に必要な視点やソーシャルワークの技法について学び、ワークやディスカッションを通して、具体的な事例を通して、参加者の気づきを共有し、支援者としての自己覚知等を確認する。



## 第3回

### 「組織内におけるコミュニケーション」

日時：令和元年9月6日（金）14：30～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪城南女子短期大学（子育て支援ソーシャルワーク研究所） 丸目 満弓

内容：生活支援記録法の定義を学び、ワークで具体的な相談記録の作成を叙述形式で行う。また、組織内の想定として、グループ内で協力・連携しながら情報を共有し、事例を作成、ディスカッションをして学ぶ。



## 第1回

### 「いっしょにあそぼうわらべうた」

日時：令和元年6月10日（月）14：30～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：特定非営利活動法人 神戸コダーイ芸術教育研究所 松本 久美子

内容：わらべうたを通して大人と子ども、そして少人数での遊びへと広がる楽しさや、声の高さやリズムの取り方、年齢に応じた展開の仕方などを実践を交えながら学ぶ。



## 第2回

### 「1対1で楽しむわらべうたから集団あそびへ」 1

日時：令和元年7月8日（月）14：30～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：特定非営利活動法人 神戸コダーイ芸術教育研究所 松本 久美子

内容：1回目の復習を実践しながら学んだ知識、技術の確認をする。また、1対1で楽しむわらべうたから主体的な子ども同士の関わりへと発展するアイデア等実践を交え、学ぶ。



## 第3回

### 「1対1で楽しむわらべうたから集団あそびへ」 2

日時：令和元年10月28日（月）14：30～17：00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：特定非営利活動法人 神戸コダーイ芸術教育研究所 松本 久美子

内容：1、2回目の学びを保育の中で実践し、その中で子どもの姿を通して感じたことや疑問に思ったことなどの意見を出し合う。疑問に対し講師に意見を聞きながら遊び方と共に歌の由来や指導法も学ぶ。



